

県立太宰府病院全面改築に伴う埋蔵文化財調査報告

君 畑 遺 跡

II

福岡県文化財調査報告書

第131集

1 9 9 7

福 岡 県 教 育 委 員 会

県立太宰府病院全面改築に伴う埋蔵文化財調査報告

君 畑 遺 跡

II

福岡県文化財調査報告書

第131集



1 君畑遺跡全景



2 2号墓

序

本書は、福岡県立太宰府病院の全面改築に先立ち実施した発掘調査の記録であります。

本遺跡が位置する五条地区は、国道3号線福岡南バイパス建設をはじめ大規模な店舗・団地・集合住宅などが相ついで開発され、これに伴って福岡県や太宰府市が実施した発掘調査で古代～中世の大宰府の様相が次第に明らかにされつつあります。

今回の調査では、平安時代の墳墓群が検出され、この時期の墓地の一端を垣間見ることができました。

発掘調査の報告としては、満足のいくものではありませんが、本書を通して地域の文化財ならびに歴史に対する認識と理解を深める一助になれば幸いです。

なお、発掘調査にあたり数々のご協力をいただいた太宰府市教育委員会をはじめ、福岡県立太宰府病院、福岡県保健環境部県立病院課ならびに地元の方々に対して心から感謝申し上げます。

平成9年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 光安 常喜

例 言

1. 本書は、県立太宰府病院全面改築工事に係る事前の発掘調査の報告である。
2. 君畑遺跡は、昭和50年度に一般国道3号線福岡南バイパス建設に係る事前の発掘調査が実施されている。今回は第2次調査にあたるため書名は「君畑遺跡II」とした。
3. 発掘調査は、福岡県からの委託を受け、福岡県教育委員会が実施した。
4. 遺物の復原・整理作業は九州歴史資料館において岩瀬正信の指導のもとに行った。鉄器の保存処理は横田義章が行った。
5. 掲載写真のうち、遺構写真は池辺元明が撮影し、遺物写真撮影は九州歴史資料館の石丸洋および北岡伸二が行った。なお、空中写真は（有）空中写真企画に撮影委託した。
6. 挿図のうち、遺構実測図は池辺と宮崎亮一が行い、遺物実測図は池辺と棚町陽子が行った。
7. 本書の執筆と編集は池辺が担当した。

本文目次

I	調査の経過	1
II	位置と環境	4
III	遺構と遺物	7
IV	おわりに	13

図版目次

	本文対照頁
巻頭図版 (1) 君畑遺跡全景	1
(2) 2号墓(西から)	7
図版1 (1) 君畑遺跡全景	7
(2) 君畑遺跡全景(東上空から)	7
図版2 (1) 調査区南東部(北東上空から)	7
(2) 調査区南東部(北上空から)	7
図版3 (1) 調査区南東部(北上空から)	7
(2) 調査中央部南半(北上空から)	7
図版4 (1) 調査区南東部(西から)	7
(2) 調査区中央部南半(北から)	7
図版5 (1) 1号墓(北から)	7
(2) 2号墓(西から)	7
(3) 2号墓遺物出土状態(南から)	7
図版6 (1) 3号墓(東から)	11
(2) 4号墓(東から)	11
(3) 5号墓(北から)	12
図版7 出土土器	10
図版8 釘・鉄製品	11

挿図目次

第1図 遺跡分布図(縮尺1/10,000)	3
第2図 君畑遺跡周辺地形図(縮尺1/2,500)	4
第3図 君畑遺跡地形図(縮尺1/1,000)	5
第4図 遺構配置図(縮尺1/200)	6
第5図 1・2・3号墓実測図(縮尺1/30)	8
第6図 4・5・6号墓実測図(縮尺1/30)	9
第7図 出土土器実測図(縮尺1/3)	10
第8図 鉄製品実測図(縮尺1/2)	12

I 調査の経過

福岡県は、精神医療専門の福岡県立太宰府病院の現在の施設が老朽化したため、現在地（太宰府市五条3丁目8番1号）において全面改築を行う基本計画をまとめ、平成7年度当初に文化財の有無とその取扱いについて県教育委員会に照会された。

当該地南側の県道筑紫野・古賀線と一般国道3号線福岡南バイパスの交差する、君畑交差点付近は、福岡南バイパス建設に伴って、昭和46年度から昭和50年度にかけて建設省地方建設局福岡国道工事事務所の委託を受けて福岡県教育委員会が発掘調査を実施した「御笠川南条坊遺跡」・「君畑遺跡」が存在しており「君畑遺跡」の範囲は病院敷地内まで含まれる可能性が考えられた。このため予備調査を実施して文化財の存在が確認され、工事による掘削が及ぶ場合には本調査が必要となる旨を伝えた。

同年6月に予備調査の範囲と敷地内の他の文化財の存在の有無を把握するため、県教育委員会文化課、太宰府市教育委員会と建設担当課の県保健環境部県立病院課、太宰府病院の四者で約8万m²の敷地の現地踏査を行った。その結果、管理棟・病棟等の建築部分及び運動場についてはすでに建設時に著しく削平を受けいることが判った。しかし、周囲の緑地帯および南バイパスを挟んだ両側の約2万m²については試掘調査を実施し遺跡の有無を確認する必要がある、と判断できた。協議の結果、試掘調査を実施し、今後の協議を進めるということで一致した。

試掘調査は平成7年7月26日～7月28日の3日間実施した。その結果、予想した君畑遺跡の隣接地である敷地の南西部において土壇墓と考えられる遺構を検出した。この部分は進入路によって掘削される計画であったため、計画変更の可能性を含めて、本調査が必要であるとの回答を提出した。

試掘調査の結果をもとに、県立病院課との協議を実施したが、計画変更は困難であるということと土壇墓を検出したトレンチの周囲、約3,000m²について全面発掘を実施することで合意し、調査期間等や調査予算の打ち合わせに入り、発掘調査、整理報告書作成を平成8年度の事業とするが決定された。

発掘調査は、平成8年7月29日から調査を開始し、同年9月6日に現地の調査を終了した。

引き続き、九州歴史資料館および文化課太宰府調査事務所で、遺物・図面等の整理作業に入った。報告書作成は年末から年度末にかけて実施した。

遺跡名は、福岡南バイパスで調査した遺跡と同名で君畑遺跡とし、書名は第2次調査の報告であるため、「^{きみがはた}君畑遺跡II」とした。

平成8年度の調査・整理の組織および関係者は次のとおりである。

福岡県保健環境部県立病院課	部長	田中	慶司
	課長	松本	啓輔
	経営企画係長	高橋	敬
	主任主事	遠藤	隆士
	〃	中村	哲也
福岡県立太宰府病院	院長	末次	基洋

事務長 吉田 祐輔
 庶務課長 岡 常雄
 主任主事 荒木 博文

福岡県教育委員会

総括

教育長 光安 常喜

文化課長 石松 好雄

参事(兼)文化財保護室長 柳田 康雄

課長補佐 元永 浩士

課長技術補佐(兼)保護室長補佐 井上 裕弘

庶務

管理係長 黒田 一治

事務主査 久保 正志

事務主査 東 健二

主任主事 鶴我 哲夫

調査

参事補佐(兼)調査班総括 橋口 達也

福岡県教育庁福岡教育事務所生涯学習課参事補佐 池辺 元明

なお、調査・整理にあたって次の方々のご指導、ご協力があった。記して感謝いたします。

福岡県文化財保護指導員 高橋慎二・和田利徳 福岡県文化課 小池史哲・重藤輝行・吉田東明

九州歴史資料館 栗原和彦・横田賢次郎・小田和利・杉原敏之・圓城寺紀子

太宰府市教育委員会文化課 和田敏信・山本信夫・狭川真一・城戸康利・山村信榮・中島恒次郎・

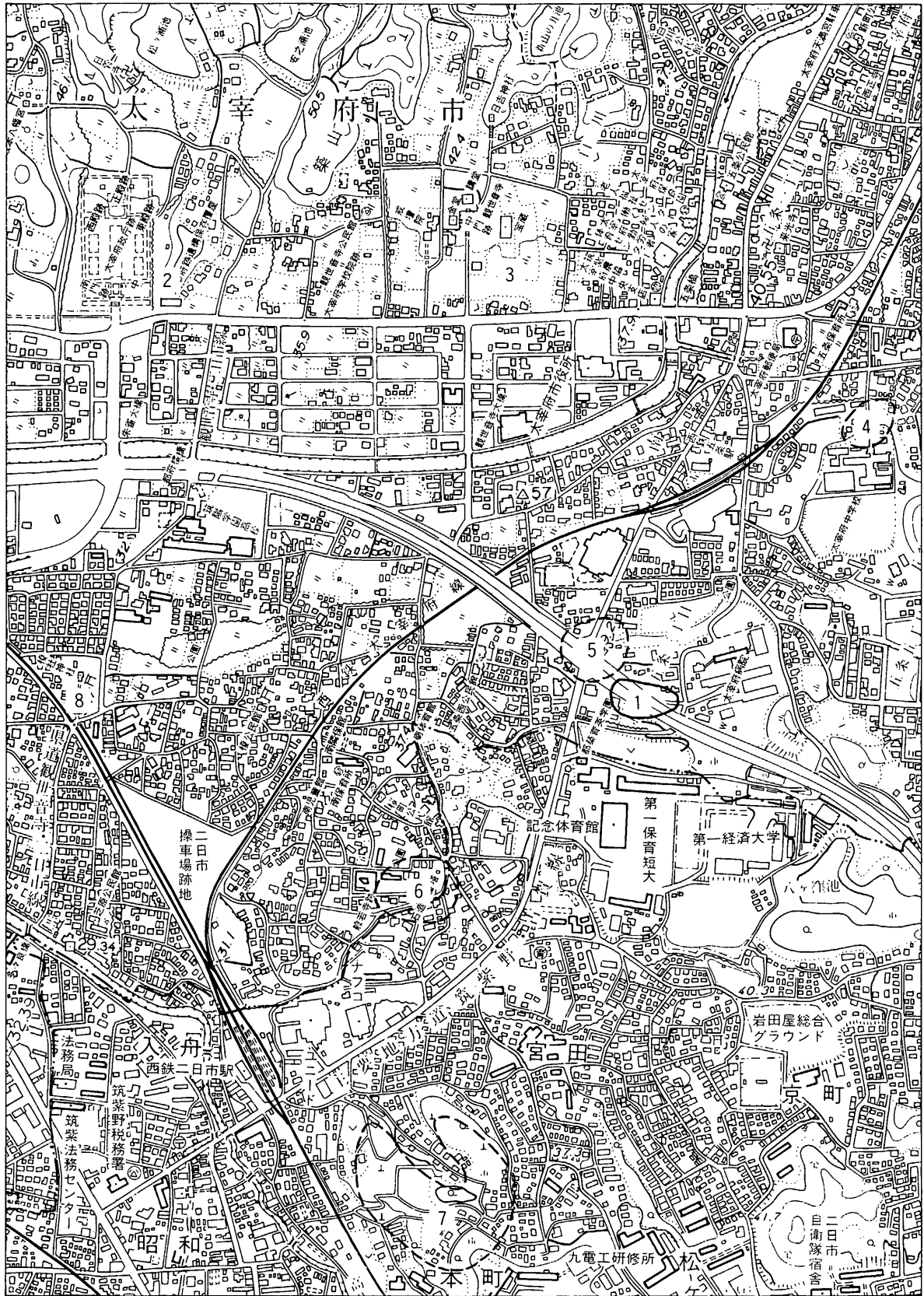
宮崎亮一・岡部大治・今村江利子

福岡教育事務所 伊藤圭二・釜瀬計・堀川久則・内洋一・村上朋子・中嶋健一・久原寛・茶原良

和・佐々木聡子



2号墓発掘作業



第1図 遺跡分布図(縮尺1/10,000)

- 1 君畑遺跡 2 大宰府政庁跡 3 観世音寺 4 鉾ノ浦遺跡 5 御笠川南条坊南遺跡
6 般若寺跡 7 峯遺跡 8 榎寺

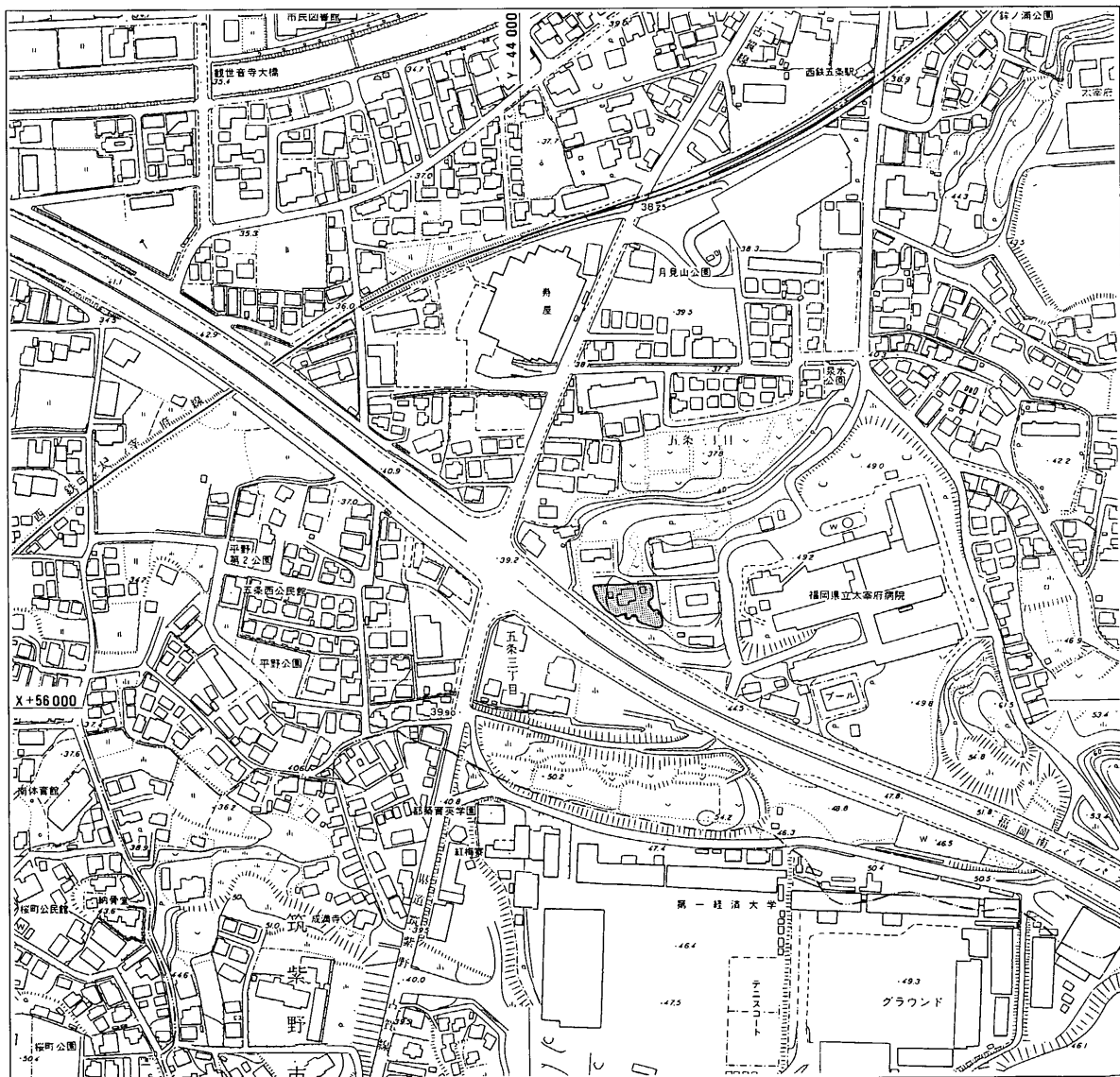
II 位置と環境

君畑遺跡は、太宰府市五条3丁目8番1号に所在する。

太宰府市は、県の中央部北西寄りに位置する。東から南側は筑紫野市、西は大野城市、北は糟屋郡宇美町に接している。地形的には福岡平野と筑紫平野を分かち、脊振山系と四王寺山系に挟まれた狭小な平野に位置するが、古代から政庁が置かれ、九州の中心として栄えてきた。

大宰府条坊内を西流する御笠川は政庁の前面付近にて南に弧を描き、広い氾濫原をつくっている。太宰府市の南部に位置する宝満山の支脈である高雄山（標高152m）から北西の御笠川に向かって数条の丘陵が舌状に派生する。君畑道跡はその小丘陵の先端部近く（標高45m）に位置している。

本遺跡が所在する五条地区は、早くから開発がすすめられた地域で太宰府にまたがる西鉄五条駅の周辺は、大型スーパーをはじめ様々な店が並び、市内でも賑やかな商店街のひとつである。教育施設や病院などの公共施設も充実し、また福岡市に近接することから周囲には大規模な新興住宅地



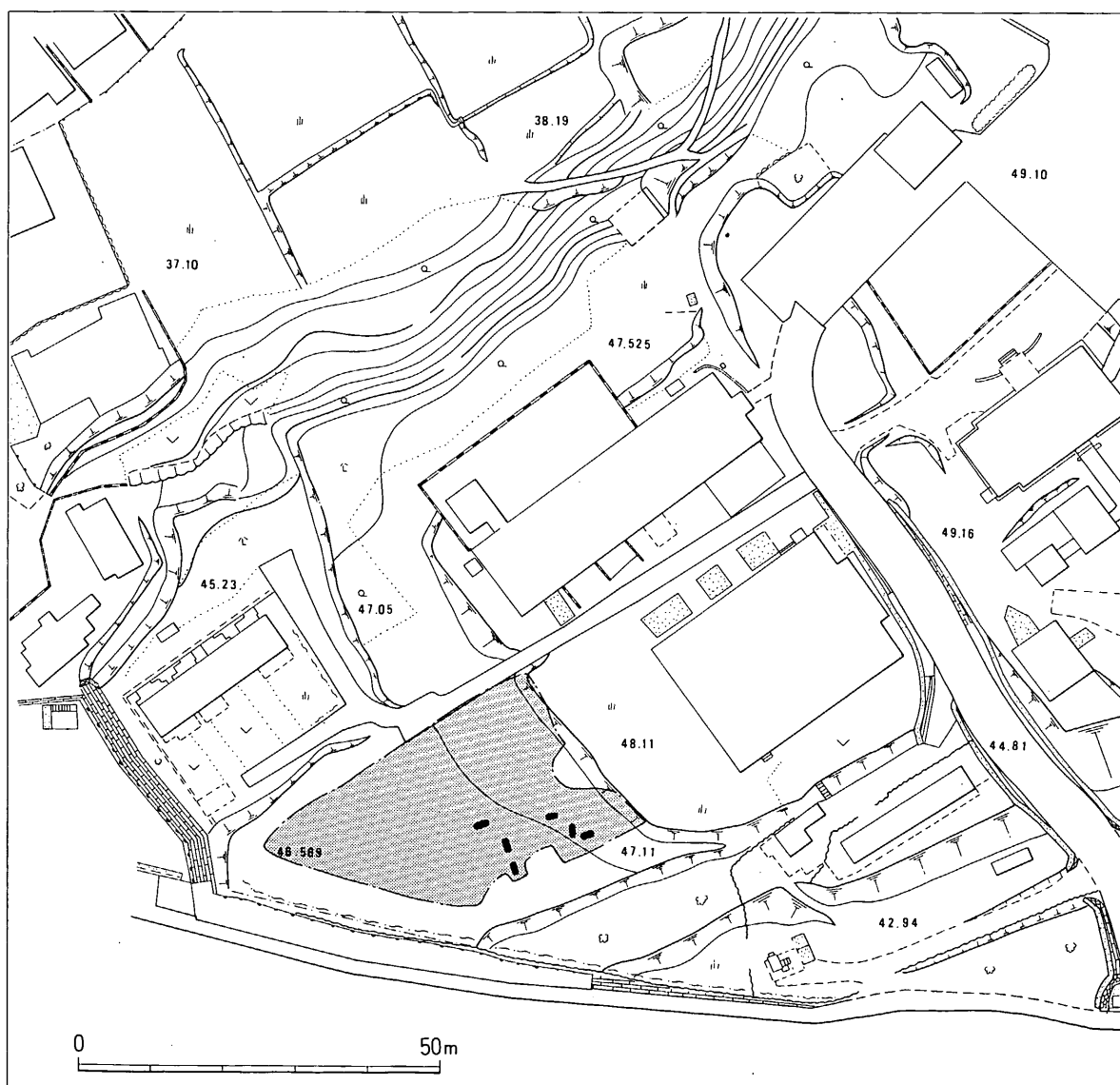
第2図 君畑遺跡周辺地形図(縮尺1/2,500)

が広がっている。

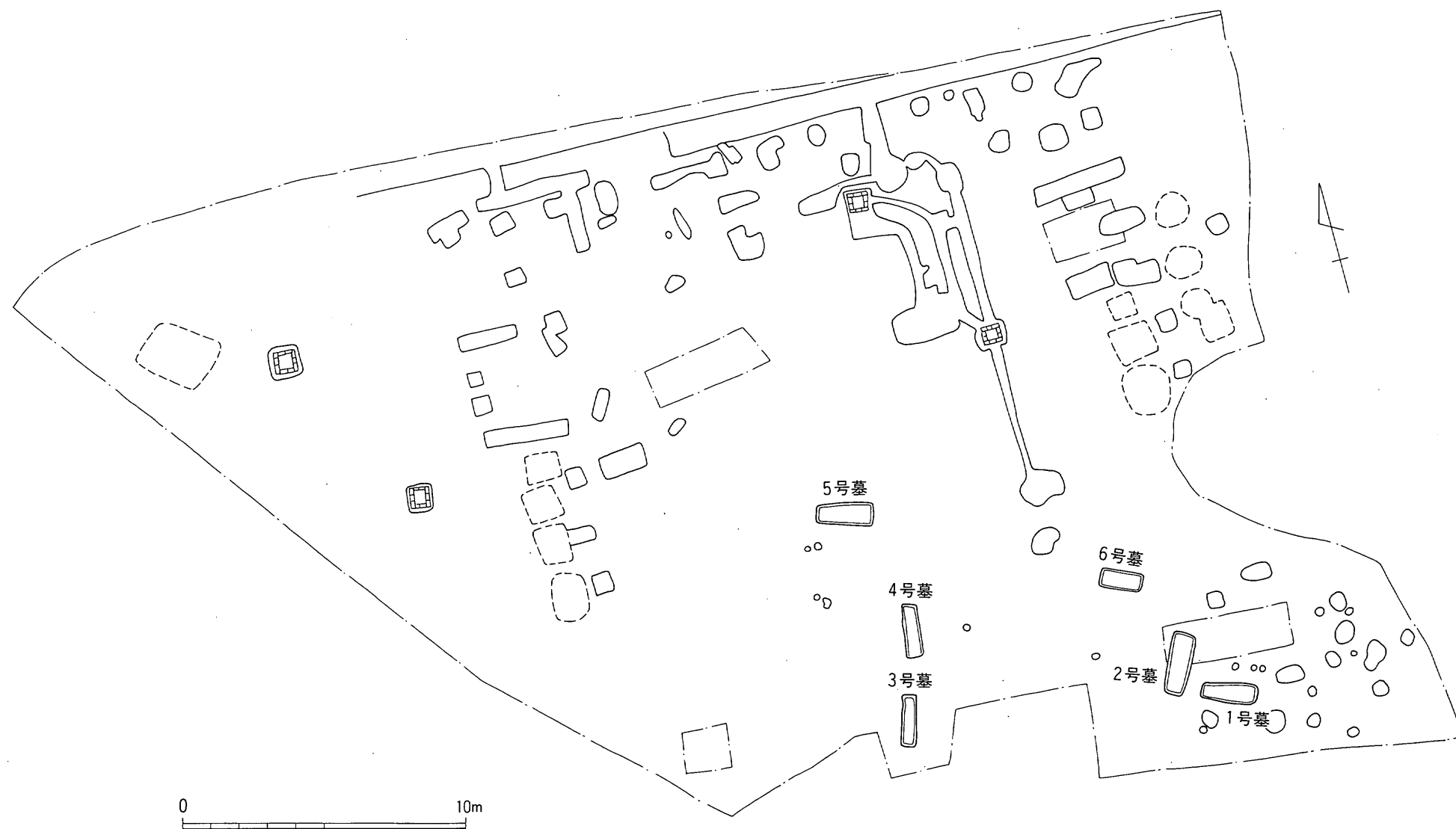
太宰府市には古代大宰府の中枢部を代表に遺跡地が多く、市域の約15%は史跡指定地である。太宰府市における遺跡の発掘調査は、昭和43年度に福岡県教育委員会が大宰府史跡の調査を開始し、太宰府市教育委員会においても昭和54年度から観世音寺土地区画整理事業をはじめとして、大宰府条坊跡および大宰府史跡に付随する遺跡の調査が続けられ、数多くの成果が上がっている。

大宰府条坊跡とする遺跡は大宰府の時期に限らずその前後の時期の遺構も明らかになっており、弥生時代の集落や墓地、中世の梵鐘の鑄造を中心とした生産遺跡の鉾ノ浦遺跡、市域の東部の市役所付近から太宰府天満宮にかけては中世の大きな住居空間で調査もすすみ、中世都市にふさわしい様相が着々と明確にされつつある。

前にも記したが五条周辺では近年再開発の波がおしよせ、地下に眠る多くの遺構にも危機がせまっている状況にある。今後とも各種開発と十分な調整を行い、大宰府の全容を解明していかなければならない。



第3図 君畑遺跡地形図(縮尺1/1,000)



第4図 遺構配置図(縮尺1/200)

III 遺構と遺物

君畑遺跡は、大宰府の平野が見渡せる標高45～46mの低丘陵の先端部に立地する。第1次調査が実施された南側の福岡南バイパス部分に向かってゆるやかに傾斜した地形であったが、現状は道路面と5～6mの比高差がある。

県立太宰府病院は、昭和6年に開院し、昭和39年に現在の管理棟・病棟に改築され今日にいたっている。今回の調査区にあたる部分には、昭和7年に医師公舎が建築され、長い間使用されたが、平成5年9月に解体された。この建物の基礎工事、配管部分は、人力で行われたらしく大きな破壊はまぬがれている。遺構検出の結果、墳墓は調査区の南側に集中しており、上部は削平を受けていた。斜面上部にあたる北側では墳墓は検出されておらず、北側端の土層観察や建物基礎部分の高さから判断すると30～40cm地山を削って整地されたらしく、墳墓群の墓域が北側へ延びていた可能性も否定できない。また南側のバイパス側も道路壁面の破壊を考慮して境界から5～6m離れて調査区を設定したため数基の墳墓が存在する可能性がある。発掘調査面積は約900m²である。検出した墳墓は6基である。

なお、第1次調査では1,000m²が調査され、墳墓および墳墓と認定されるもの25基、横穴式石室を再利用した火葬場と考えられる遺構1基が検出された。造営の時期は9～10世紀代である。

1号墓 (図版5-1、第5図)

調査区南側端から検出したもので、西側に50cmほど離れて2号墓がある。遺構検出面の標高は45.45mである。平面形態は隅丸長方形を呈し、中央部の幅が広い。長さは主軸で2.03m、幅は東側で65cm、中央で76cm、西側で53cm、深さは中央の最深部で13cmを測る。両小口・側壁ともにゆるやかに立ち上がる。主軸方向はN-75°-Wをとる。鉄釘など木棺墓と判断できるものは出土していない。

遺物は南側壁部で須恵器杯の破片が床面から5cmほど浮いた状態で出土した。

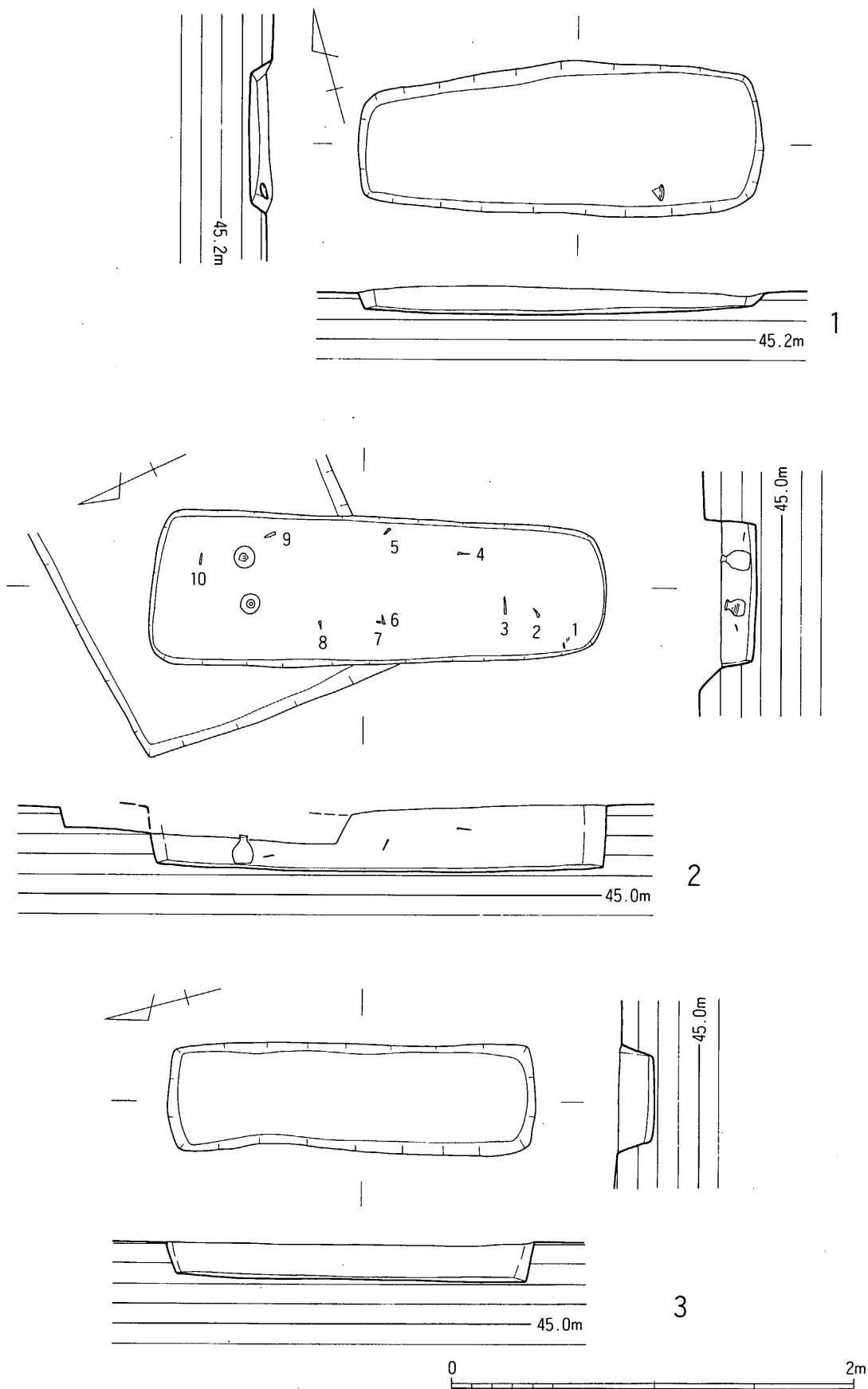
出土遺物 (第7図-1)

須恵器杯 杯の底部破片で、底部端に断面四角形に近い高台が付く。内底部はナデ、外底部は回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整される。色調は青灰色を呈し、焼成は良好である。胎土には細砂粒を若干含む。高台径10.0cm、高台高0.7cm、残存高3.0cmである。

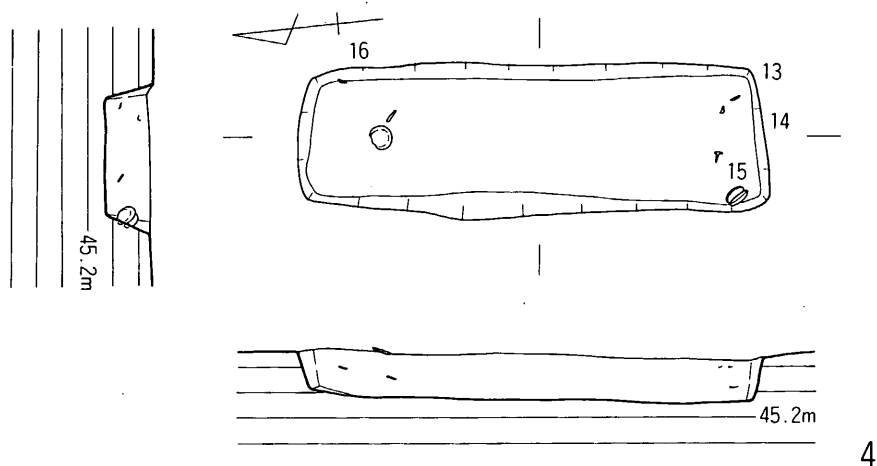
2号墓 (図版5-2・3、第5図)

調査区南側から検出したもので、建物解体時に北側の一部が破壊されている。遺構検出面の標高は45.45mである。平面形態は長方形を呈し、小口幅は北側が広く、南小口のコーナーは丸味をもつ。長さは中央主軸で2.27m、幅は北側で78cm、中央で73cm、南側で58cm、深さは最深部で約30cmを測る。墓壇の規模は今回調査したものの中では最大である。両小口、側壁ともにほぼ垂直に掘り込れており、床面も水平に近い。主軸方向はN-25°-Eを示す。

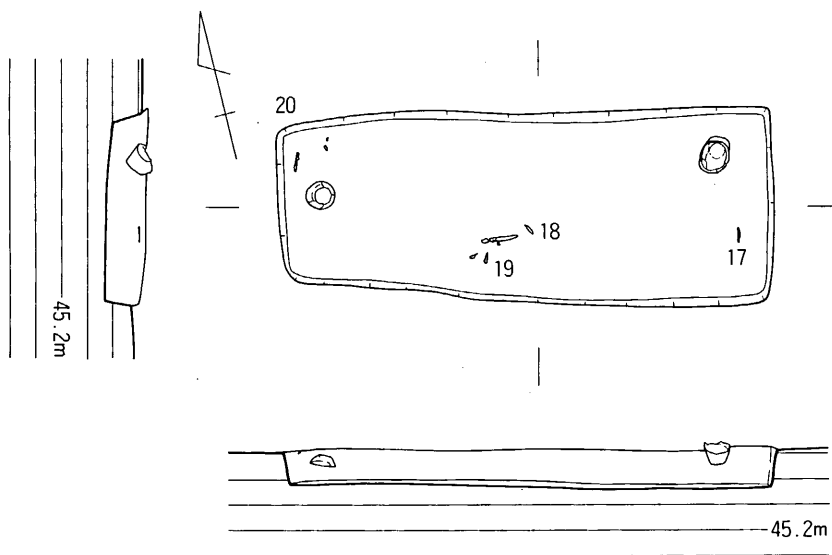
鉄釘は9本出土したが、規則性は認められず木棺の規模を復原するのは難しいが、釘1と釘10間



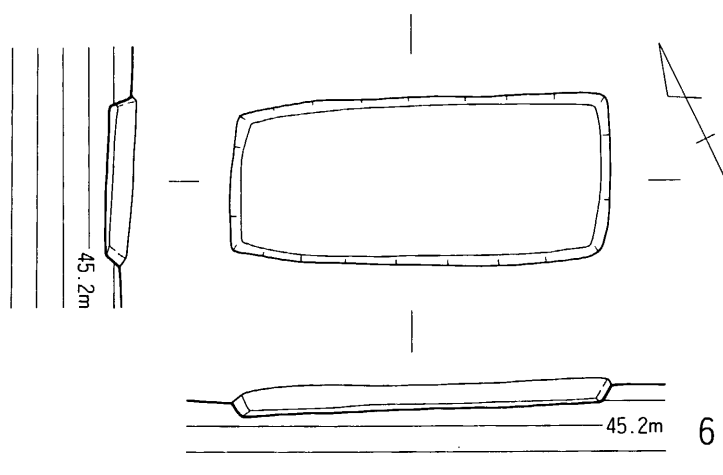
第5図 1・2・3号墓実測図(縮尺1/30)



4



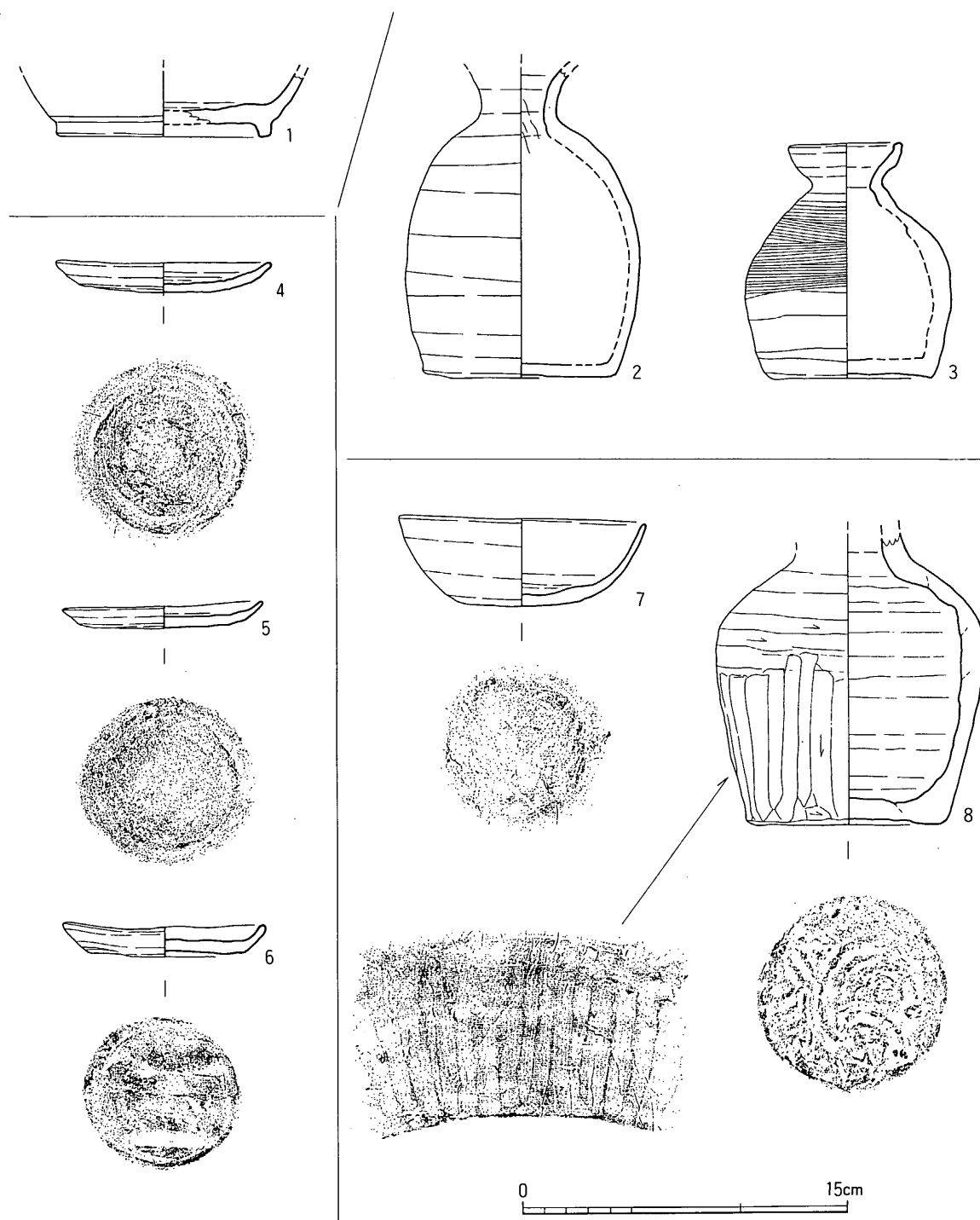
5



6



第6図 4・5・6号墓実測図(縮尺1/30)



第7図 出土土器実測図(縮尺1/3)

で長さを測ると約1.8m、幅は釘5と対称の位置にある釘6・7で測ると48cmほどになる。

遺物は棺の北小口部から約40cm内側に2個の壺が副葬されていた。出土状況からみて棺内の頭部付近に据えられたものであろう。

出土遺物 (図版7)

須恵器壺 (第7図2・3)

2は、口縁端部を欠損する。残存器高14.5cm、胴部最大径10.8cm、底径9.0cmの大きさである。

肩部はなで肩で、胴部も丸味をもつ。底部は平坦である。頸部内外面は回転ナデ調整、内面にはシボリ痕が認められる。胴部外面は中位までは回転ナデ、中位以下は回転ヘラ削り調整される。中位にタタキ痕が残る。外底部はナデられる。工具痕・板状圧痕が認められる。灰かぶり、自然釉があり、色調は緑灰色～淡茶褐色・黒茶褐色を呈する。胎土には細小砂粒を若干含む。焼成は良好である。3は、完形品で器高11.0cm、口縁部径5.3cm、胴部最大径9.5cm、底径7.5～8.0cmの大きさである。口縁部は短く立ち、端部は平坦で内傾させる。肩部はなで肩で、最大胴径は中位にある。胴部はやや歪である。口縁部は回転ナデ、肩部には指圧痕が残る。胴部外面上位はカキ目を施す。下位は回転ヘラ削り。外底部はナデ調整される。色調は青灰色を呈し、胎土には細小砂粒を若干含む、焼成は良好である。

鉄 釘 (第8図1～12)

12本の鉄釘が出土した。断面は矩形をなし、頭部は横方向に折り曲げられる。完存するものは3の1本だけで全長7.2cm、幅0.5cmである。5は頭部を欠損するが身部が完存している。身部長6.0cmを測る。他に頭部の形態がわかるものは2・6・8・9・11・12があるが折曲げ方や厚さ等に若干の差が認められる。すべてに棺材が付着しており、木目で棺材の厚さが推定できるものがある。2は頭部から1.5cm、3は1.7cmで木目の切目が認められる。

3号墓 (図版6-1、第5図)

調査区南側中央部から、北側の4号墓と直列に並んだ状態で検出した。墓壙南側は調査区外であったため拡張した。地形は西側と東側が、谷状に窪んでおり、周囲から見ると凸部の平坦面に造られている。検出面の標高は45.45cmである。平面形態は長方形を呈する。長さは中央部で1.83m、幅は北側で50cm、中央で53cm、南側で55cm、深さは最深部で17cmを測る。両小口、側壁ともにやや斜めに立ち上がる。床面はほぼ水平である。主軸方向はN-15°-Eを示す。

鉄釘や他の副葬品は出土していない。

4号墓 (図版6-2、第6図)

調査区南側中央部から検出した。3号墓からは北に1.5mほど離れている。検出面の標高は45.45mである。平面形態は長方形を呈する。長さは中央部で1.85m、幅は北側で53cm、中央で60cm、南側で56cm、深さは最深部で18cmを測る。両小口、側壁ともに斜めに立ち上がる。床面はわずかに傾斜しており、南側がやや低い。主軸方向はN-7°-Eでほぼ南北方向を示す。

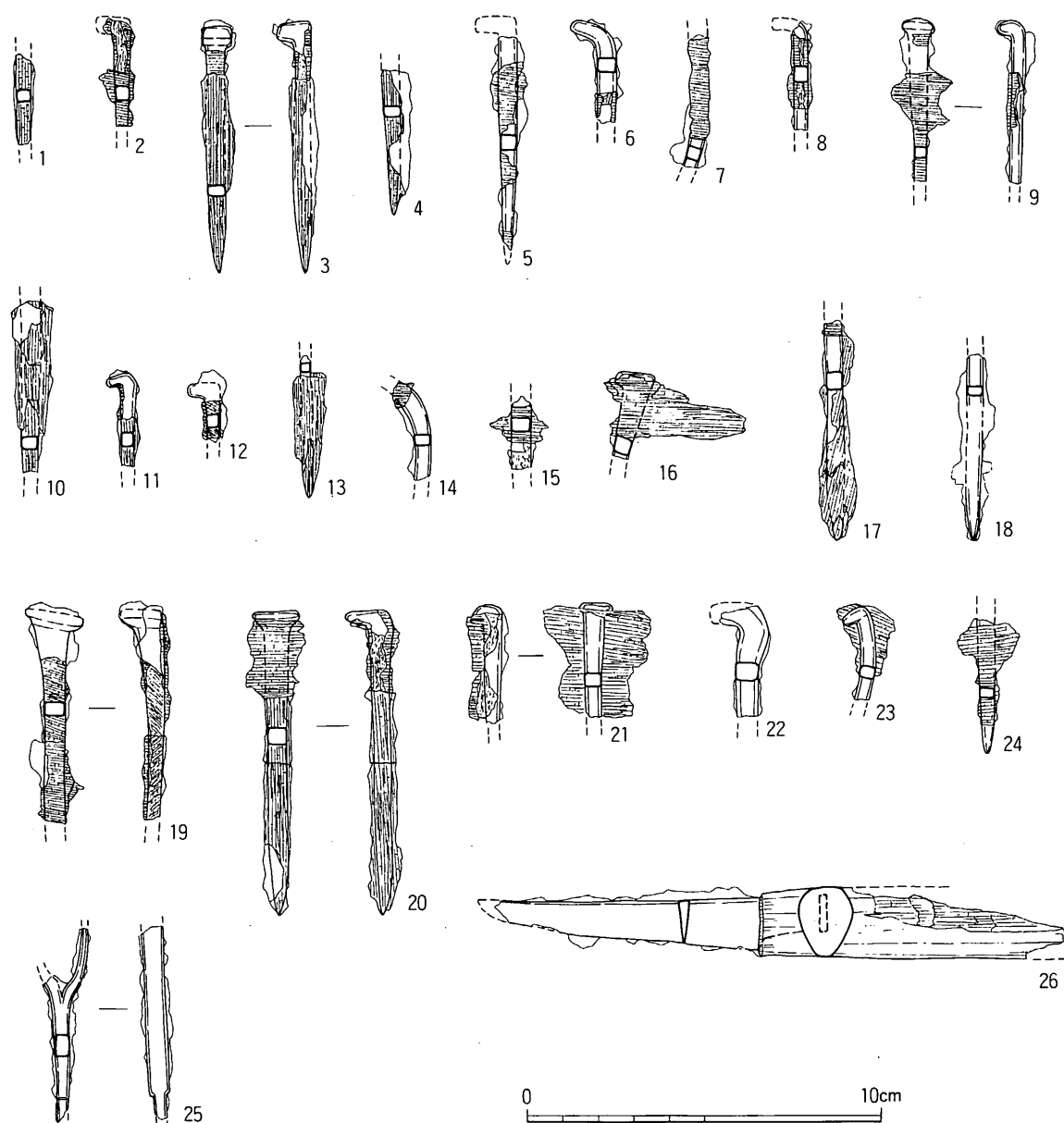
鉄釘は両小口部で計4本出土したが木棺を復原できる出土状態ではない。

棺主軸上の北側から土師器小皿1、南西側隅から口縁部を合わせる様に土師器小皿2が出土した。出土状態から棺外副葬と考えられる。

出土遺物 (図版7・8)

土師器小皿 (第7図4～6)

4は口径10.0cm、底部7.5cm、器高1.3～1.6cm、5は口径9.2cm、底径7.3cm、器高0.8～1.0cm、6は口径9.4cm、底径7.0cm、器高1.3～1.6cmの大きさで3点ともにやや歪である。4は口縁部を1部欠損している。4、5は、器面はヨコナデ、底部内外面の一部ナデ調整され、外底に板状



第8図 鉄製品実測図(縮尺1/2)

圧痕がわずかに残る。6は内底部は全面ナデ調整、外底部には糸切り痕と板状圧痕が認められる。いずれも灰黄褐色を呈し、胎土には細小砂粒を少量含み、焼成は良好である。

鉄 釘 (第8図13~16)

4本の鉄釘が出土したが完存するものはない。16は付着している棺材の木目から、板の厚さ1.6cm、で斜めに打ち込まれたことがわかる。

5号墓 (図版6-3、第6図)

調査区の中央やや東よりの平坦部から検出した。4号墓からは約3mほど北側の位置にある。検出面の標高は45.5mで今回調査分の内では最も高所に造られる。平面形態は長方形を呈する。長さは中央部で1.95m、幅は東側で78cm、中央で75cm、西側で63cm、深さは15cmを測る。両小口、両側壁ともわずかな傾斜で立ち上がる。床面はほぼ水平を保つ。主軸方向はN-76°-Wを示す。

鉄釘8本出土したが内4本は遺構検出時の出土である。釘17と釘20間の長さは1.7m、釘19の位置

を中央で折りかえすと幅40cmほどの木棺が推定できる。

遺物は北東隅から壺1、西側小口部から杯1 中央南側から刀子1、不明鉄器1が出土した。

出土遺物（図版7・8）

土師器杯（第7図7）

口径11.4cm、底径6.0cm、器高3.9～4.2cmの大きさの杯でわずかに歪む。底部と体部の立ち上がりは丸味をもつ。底部外面はヘラ切り後ナデ、他はヨコナデ調整される。色調は内面が灰黄褐色、外面は口縁直下から底部にかけて黒色を呈する。胎土には細小砂粒を少量含み、焼成は良好である。

壺（第7図8）

口縁部を欠損する壺である。残存器高13.7cm、胴部最大径は12.4cm、底径9.2cmの大きさである。全体に厚手の造りで、肩部はなで肩で丸味をもち、胴部最大径は肩部のやや下位にある。胴部次第にすばまり、上底の底部につづく。内面は回転ナデ、胴部と底部の境は指圧痕が残る。底部中央はナデ調整。外面頸部・肩部は回転ナデ、胴部は0.5～1.0cm幅で縦方向のヘラ削り、底部との境は部分的に横方向のヘラ削りがみられる。底部は青海波のタタキが施される。色調は外面が黄灰色、内面は灰色を呈し、胎土には細小砂粒を少量含み、焼成は良好である。

鉄 釘 （第8図17～24）

8本の鉄釘が出土した。2号墓・4号墓に比べてひとまわり大きい。断面は矩形をなし、頭部は横方向に折り曲げられる。完存するものは20の1本だけで、全長8.8cm、最大幅は0.7cmほどある。

17・19・20・21・23・24に棺材が付着しており木目の方向で材の厚さがわかる。19は頭部から3.5cm、20は2.4cm、21は1.7cmで木質の切目が確認できる。

刀 子 （第8図26）

5号墓の棺中央南よりの部分から刃部長7.4cm、刃部最大幅1.5cm。刃先を欠損するが、その形態からみて研ぎ減りが著しい。柄は木質が残り、茎の形態は確認することができないが、柄の破損部に見える茎の一部から片関をなすものと思われる。

不明鉄器 （第8図25）

残存長5.8cm。端部付近に、茎様の段をもち、端から3.6cmの所で二又に分かれる。他は欠損しており全体の形態及び用途は不明である。

6号墓 （第6図）

調査区南側から検出した。1号墓・2号墓の北側に位置する。検出面の標高は45.4mである。平面形態は長方形を呈する。長さは中央部で1.5m、幅は東側で64cm、中央で65cm、西側で55cm、深さは10cmを測る。両小口、両側壁ともに斜めに立ち上がる。床面は西側がわずかに下がる。主軸方向はN-65°-Wを示す。鉄釘や他の遺物は出土していない。

IV おわりに

県立太宰府病院の全面改築に伴う今回の発掘調査で約900㎡を発掘し、平安時代前半の墳墓群を検

出すことができた。君畑遺跡は大宰府の平野が見渡せる低丘陵の先端部に位置するもので、県立太宰府病院の南側を通る国道3号線福岡南バイパス建設工事に伴って発掘調査されている。今回の調査区は同一遺跡の北側部分にあたり、平安時代墳墓群の北側墓域を確定することができた。

第1次調査では、墳墓および墳墓と認定されるもの25基、横穴式石室を再利用した火葬場と考えられる遺構1基が検出された。副葬品や棺上供献品等から造営の時期をみると、9世紀中頃から後半(2号)、10世紀初頭前後(18号)、10世紀後半から11世紀初頭(8号・9号・19号・22号)、11世紀初頭(12号・16号)で平安時代前半に最盛期を迎えていた遺跡であることがわかる。

今回の調査では6基の墳墓を検出した。副葬品を伴っていたのは、1号墓・2号墓・4号墓・5号墓の4基で、これら中心に造営の時期を検討してみたい。

1号墓から須恵器杯の底部小破片が棺中央部南側から出土したが、出土状況からみてこの墳墓に伴うものとは考えにくい。底部端に断面四角形に近い高台をもつものでその特徴から8世紀後半代のものと考えられる。

2号墓からは棺の北側小口付近から須恵器短頸壺2個が並んで出土した。2は口縁部を欠失するが複合口縁の短頸壺と考えられる。胴部外面は中位までヨコナデ、中位以下は回転ヘラ削り調整を施すが一部に格子目のタタキ痕が認められる。この壺が示す器形・調整・焼成等は太宰府周辺では出土例はなく、他に類例を求めると、熊本県荒尾窯跡群の下谷窯跡、北山浦A窯、熊本県球磨窯跡群下り山窯跡出土例にタタキを施した短頸壺がある。3の複合口縁短頸壺は小形品でこれについても太宰府周辺での出土例はない。これに類似したものは宮崎県佐土原町下村窯^(註1)にあり、2と同器形ものも出土しており、^(註2)時期的には9世紀前半代におさまるものである。

4号墓から出土した土師器小皿はヘラ切りのもの(4・5)と糸切り痕を残すもの(6)が共存している。6の特徴をもつものは大宰府史跡からも出土しており12世紀前半のものである。

5号墓からは土師器碗と須恵短頸壺が出土したがいずれも特殊な土器で太宰府周辺、北部九州では出土例がない。8は後世の攪乱で口縁部を欠失するが複合口縁をもつ短頸壺と考えられる。この壺の最大の特徴は胴部の下半の縦方向のヘラ削りと底部に残る青海波のタタキである。青海波のタタキは前述した熊本県荒尾市窯跡群下谷窯跡・熊本県球磨郡錦町の下り山窯跡に胴部外面にタタキを施す同器種がある。本例は胴部外面にタタキは認められないが底部の青海波との関連で整形段階にタタキが施こされた可能性は十分に考えられる。縦ヘラ削りについては宮崎県佐土原下村窯から同形の器種に出土例がある。7の土師器杯についても同形のもの^(註3)は出土例がないが調整等の特徴から9世紀前半代と考えられる。

以上のように本調査で出土した複合口縁短頸壺は熊本県・宮崎県の九州南部で9世紀代に操業されていた窯跡群からの出土例と関係が深い。全く同形同器種のものはないが部分的な調整等に類似点が多い。1次調査で出土した須恵器甕にも「八代郡 豊二」の銘がある破片が出土しており肥後の国との深い関係が感じられる。

今回の墳墓群の時期は、5号墓・2号墓が9世紀前半代、4号墓が12世紀初めごろに造営されたものであろう。

註1 熊本県教育委員会 1980『生産遺跡基本調査報告書Ⅱ—須恵器窯跡・瓦窯跡・陶磁器窯跡—』九州歴史資料館横田賢次郎、太宰府市教育委員会山本信夫両氏の教示を得た。

2 宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会 1996「下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉」佐土原町文化財調査報告書 第10集

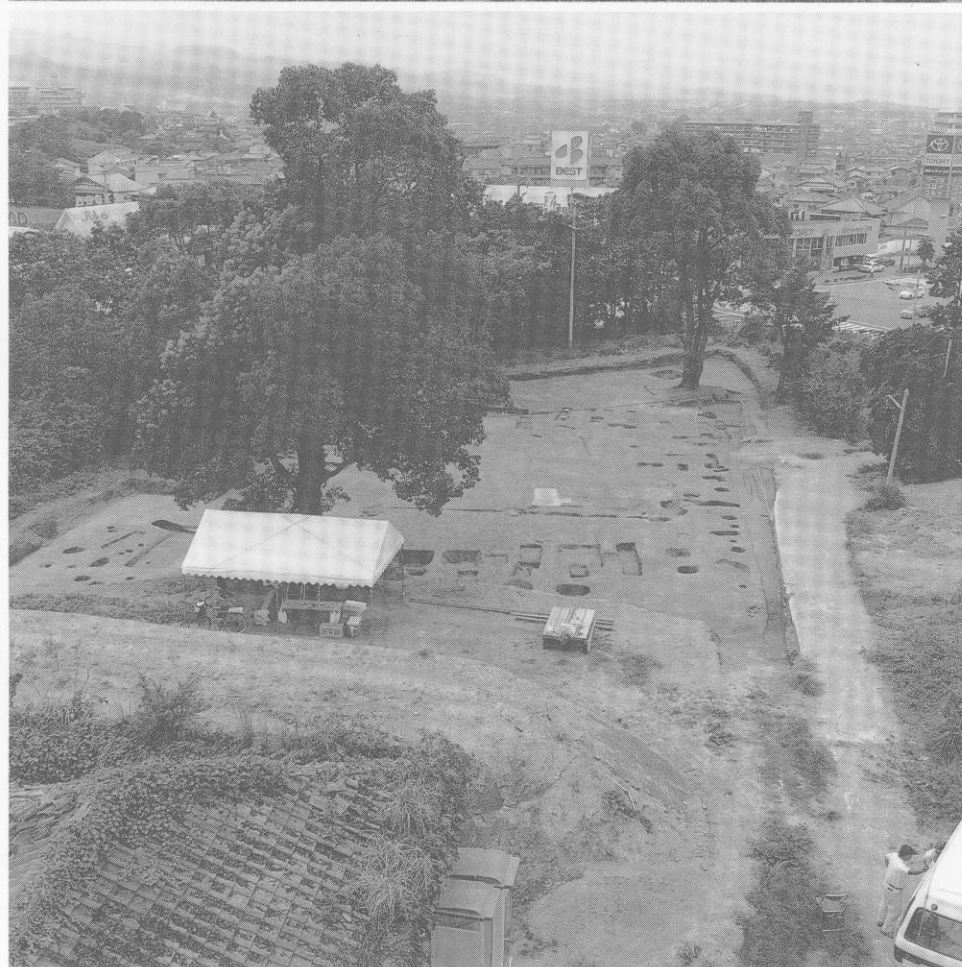
3 註2に同じ。横田賢次郎、山本信夫両氏の教示を得た。

図 版

1
君畑遺跡全景



2
君畑遺跡全景（東上空から）





1 調査区南東部（北東上空から）



2 調査区南東部（北上空から）

1 調査区南東部 (北上空から)

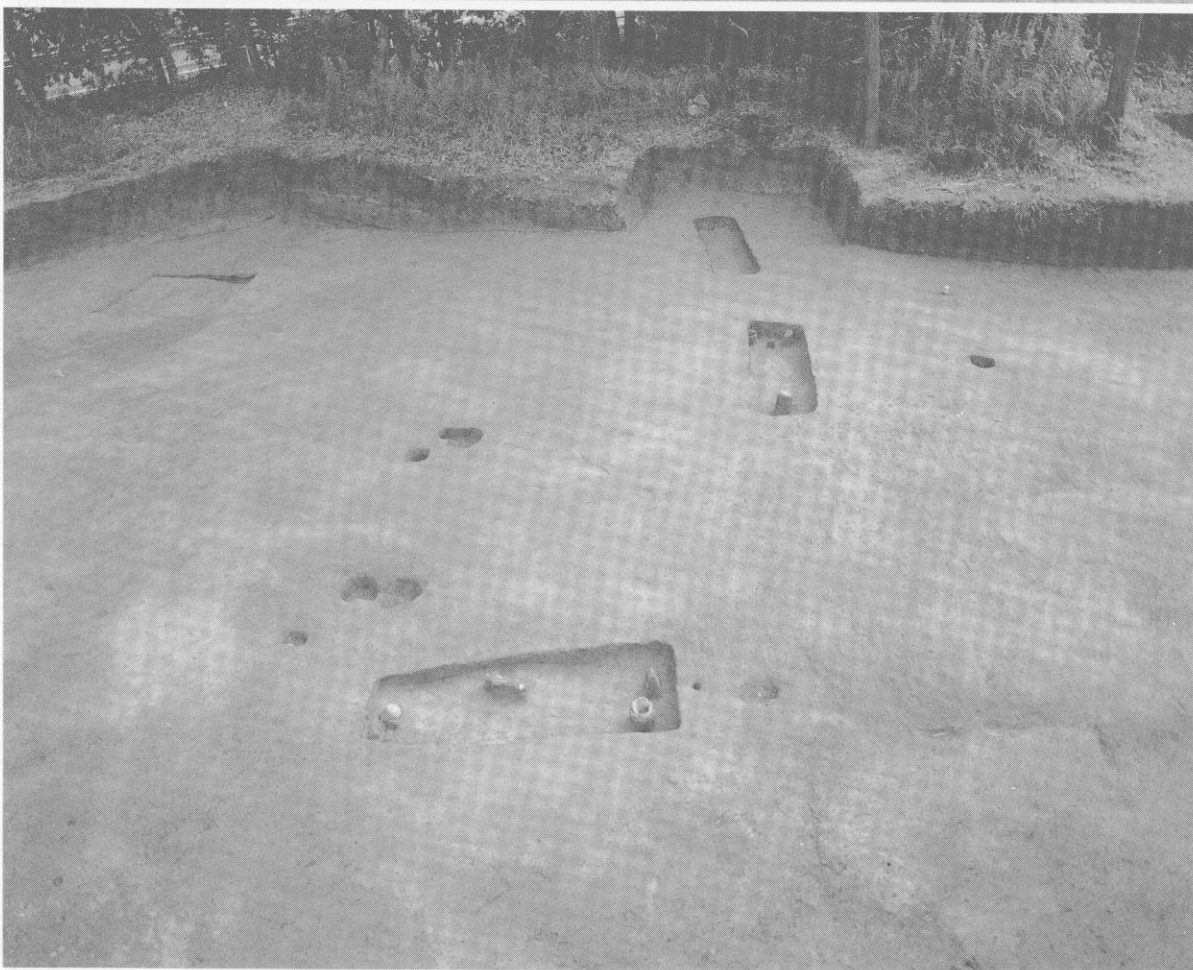


2 調査区中央部南半 (北上空から)



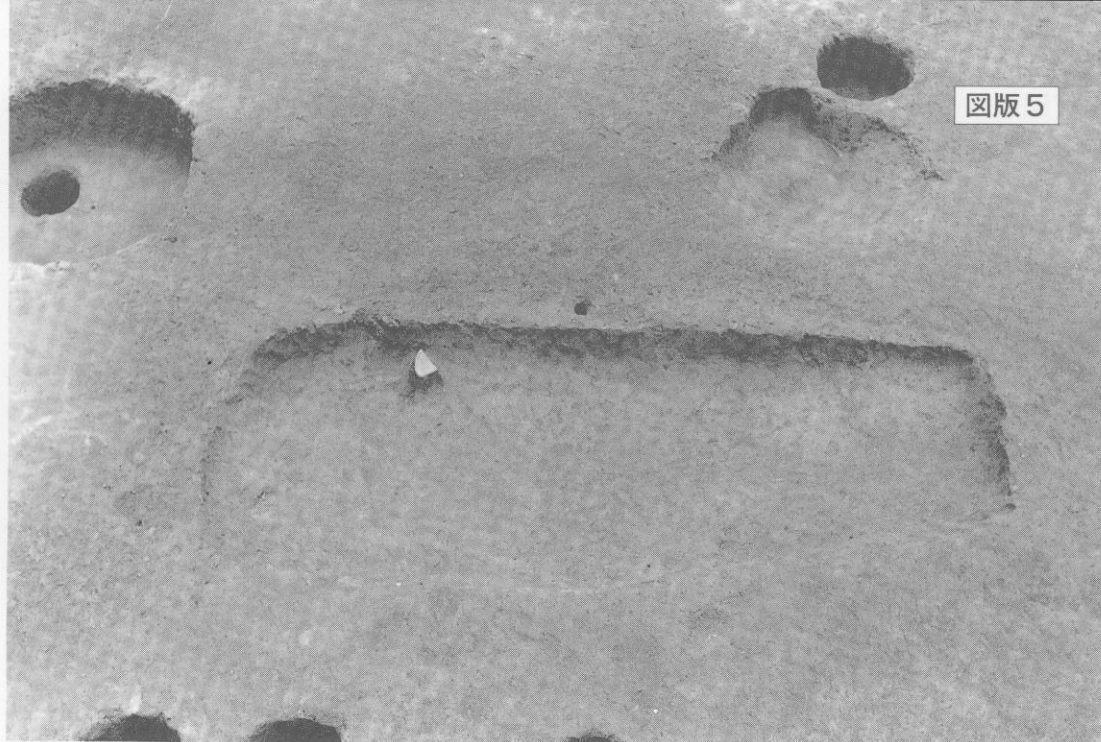


1 調査区南東部（西から）

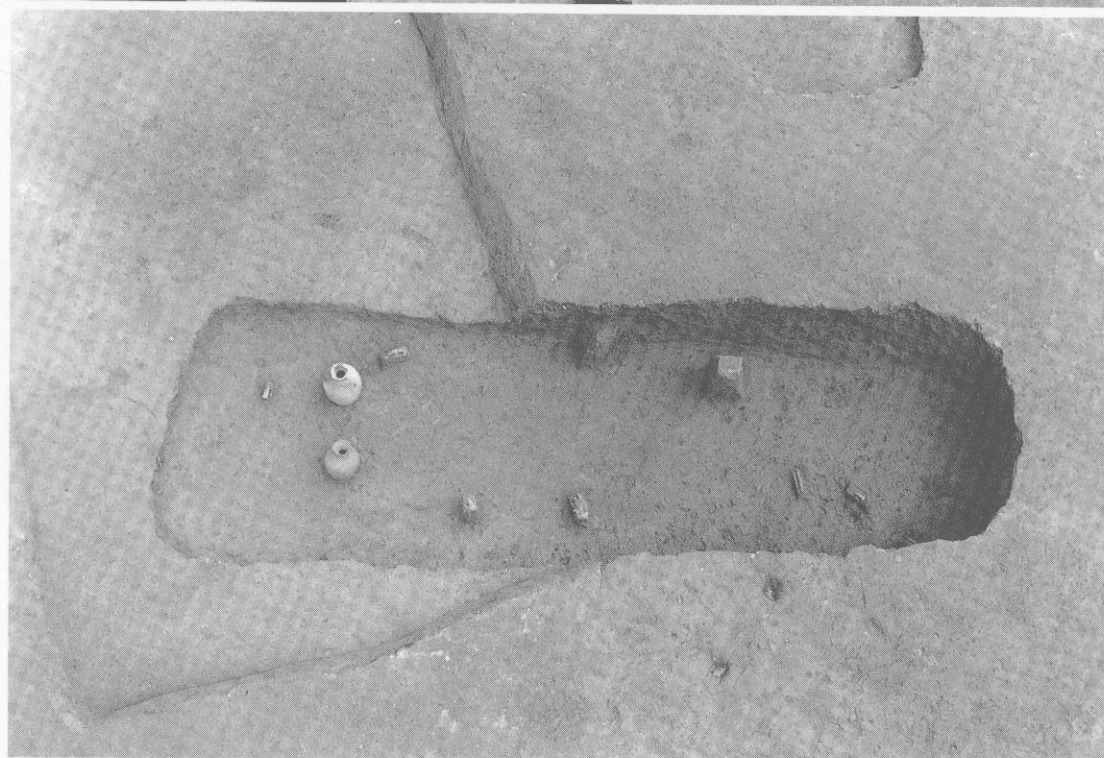


2 調査区中央部南半（北から）

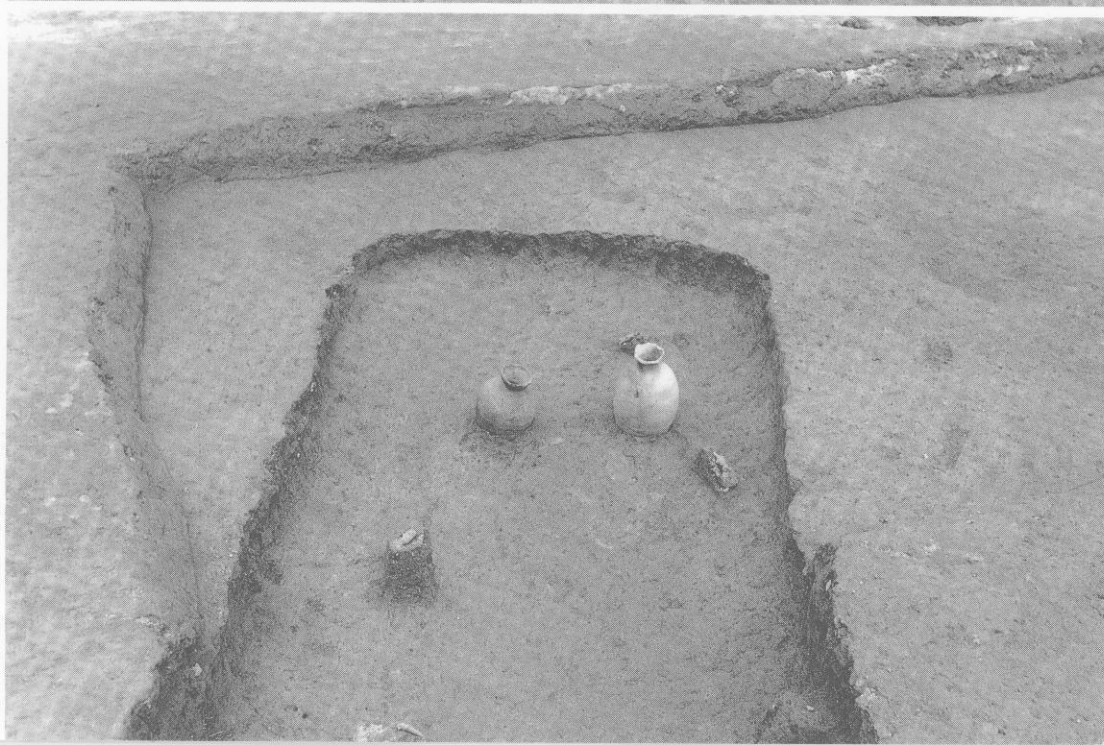
1
1号墓（北から）



2
2号墓（西から）

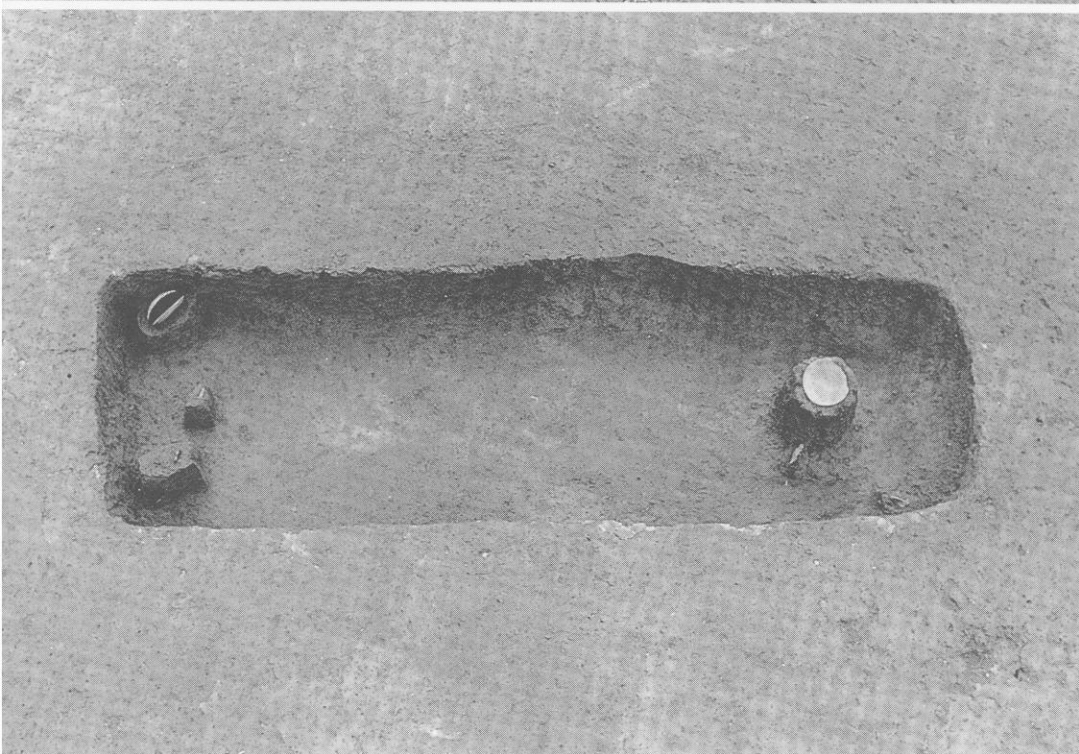


3
2号墓遺物出土状態（南から）

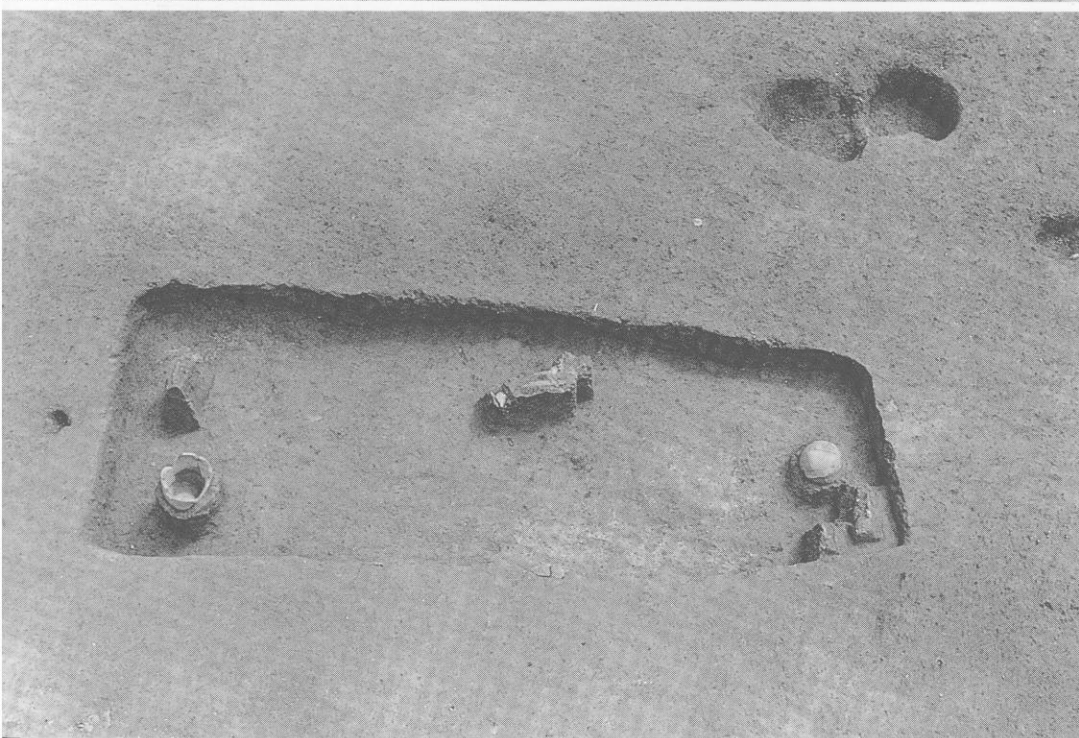




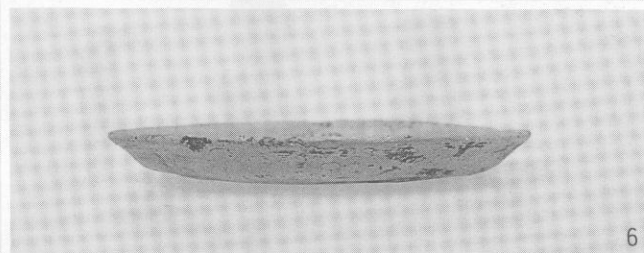
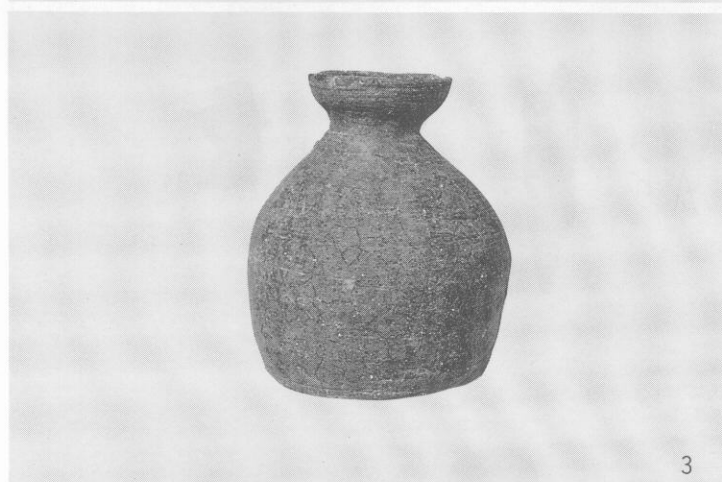
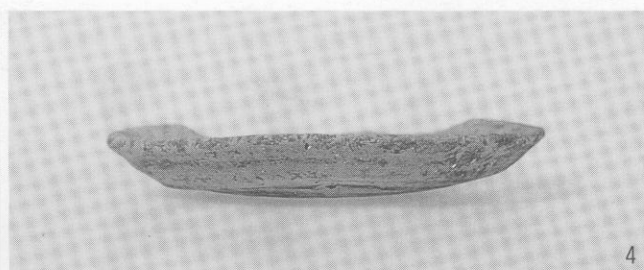
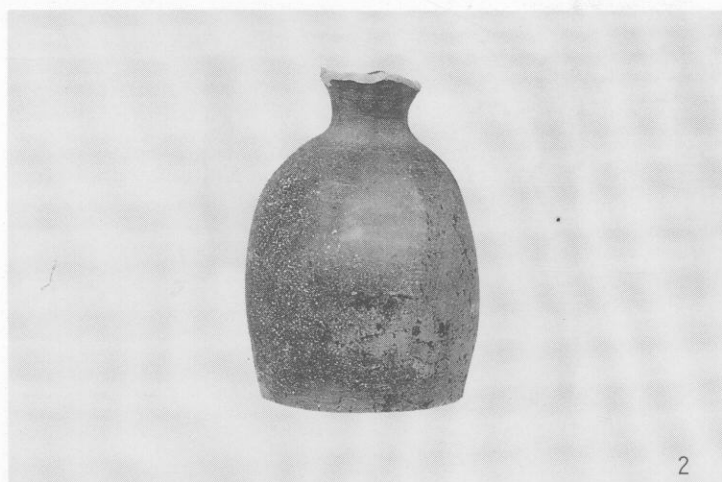
1
3号墓（東から）

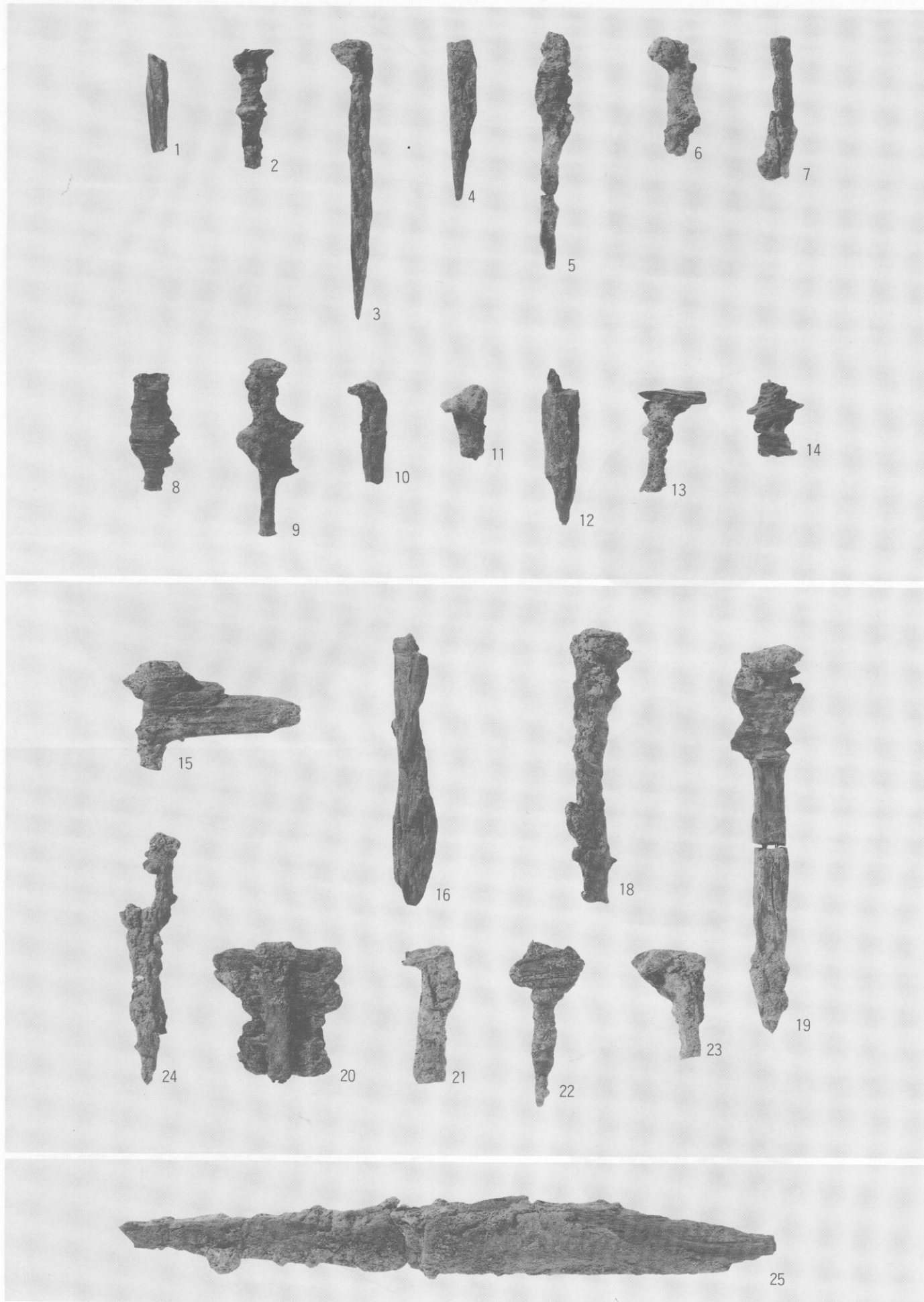


2
4号墓（東から）



3
5号墓（北から）





報 告 書 抄 録

ふりがな	きみがはたいせき							
書 名	君畑遺跡Ⅱ							
副 書 名	県立太宰府病院全面改築に伴う埋蔵文化財調査報告							
巻 次	Ⅱ							
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第131集							
編 著 者 名	池辺元明							
編 集 機 関	福岡県教育委員会							
所 在 地	〒812 福岡市博多区東公園7-7							
発行年月日	西暦1997年 3 月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
きみがはた 君 畑	ふくおかけん 福岡県 だざいふし 太宰府市 ごじょう 五条 3丁目8番1号	402214	210142	33° 30' 18"	130° 31' 36"	19960729 19960906	900m ²	病院建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
君 畑	墓地	平安	土墳墓（木棺墓）	須恵器・土師器 鉄釘・刀子				

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年度 8	登録番号 5

君 畑 遺 跡 Ⅱ	
福岡県文化財調査報告書	
第 131 集	
発 行	福岡県教育委員会 812 福岡市博多区東公園7-7 電話 (092) 651-1111
印 刷	セントラル印刷 株式会社 福岡市中央区大宮1丁目5-13